

## &lt;論文&gt;

## 保育・教育現場における絵本の読み聞かせの意義

青戸 泰子<sup>\*i○</sup> 田邊 資章<sup>\*ii</sup> 原田 夏帆<sup>\*iii</sup>

## The significance of reading to children at nursery schools and other school educational sites

Yasuko AOTO<sup>\*i○</sup> Yoshiaki TANABE<sup>\*ii</sup> Kaho HARADA<sup>\*iii</sup>

The purpose of this study was to examine the significance of reading to children at nursery schools and other school educational sites. As a result, five factors have been extracted. Those are 'imagination', 'sharing emotions', 'education', 'interests in literature' and 'rapport'. The importance of the teachers' expertise to support these factors was also discussed.

**Key words** : picture book, reading to children, the significance, nursery school teachers.

(絵本, 読み聞かせ, 意義, 保育・教育者)

## 1. 問題

現在、日本では年間2000冊近い絵本が出版されている。また、乳幼児健診などで赤ちゃんに絵本を手渡す「ブックスタート運動」が全国の自治体で積極的に実施されている。今まさに子どもたちは「あふれる絵本と早まる出会い」(横山ら, 2008)の中にいるのである。

そもそも、絵本を読むこと、触れること、また

養育者が子どもに絵本の読み聞かせをするという行動は子どもの成長にとって生理的に必要不可欠なものではなく、選択の自由が各々に委ねられている社会文化的なものとして位置づけられている(秋田ら, 1996)。その一方で、絵本の読み聞かせという行動は、家庭や保育所・幼稚園において積極的に行われており、育児場面や保育・教育場面において欠かせないものとなっている(細井, 2015)。

絵本の読み聞かせには、子どもの自己形成や共

\* i 関東学院大学教育学部：〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

Kanto Gakuin University: 1-50-1, Mutsuurahigashi, Kanazawa-ku, Yokohama 236-8503, Japan.

\* ii 東京未来大学：〒120-0023 東京都足立区千住曙町34-12

Tokyo Mirai University: 34-12, Senjuakebono-cho, Adachi-ku, Tokyo 120-0023, Japan

\* iii 中希望が丘保育園：〒150-0055 横浜市旭区中希望が丘147

Nakakibougaoka Nursery school: 147, Nakakibougaoka, Asahi-ku, Yokohama 150-0055, Japan

感性、協調性を育てるなど情緒や対人関係の発達に関係し、その後の主体的な読書活動にもつながると指摘されている(藪中ら, 2014)。この主体的な読書活動については、子ども読書年に関する決議(参議院本会議, 1999)の中で、「子どもたちの言葉、感性、情緒、表現力、創造力を啓発するとともに、人としてよりよく生きる力を育み、人生をより味わい深い豊かなものとしていくために欠くことのできないものである」と示されている。しかし、乳幼児期の読み聞かせは児童期以降の読書推進のためだけに行われているわけではない。絵本を読み聞かせるという行動は、活字文化に触れ、空想世界を共有し、親子の語らいの場を与える行動である(秋田ら, 1996)。また、乳幼児期の子どもたちを保育する上で重要なねらいや目的が示されている認定こども園教育・保育要領(2014)では、「言葉」の領域において具体的な教材として「絵本」を挙げ、絵本や物語などに親しむことで、保育教諭等や友達と心を通わせることや、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わうことが目指されている。

このように絵本の読み聞かせが育児や保育・教育の場面で多く選択される中、近年では、絵本を読む人と読んでもらう人、及びその関係性、そして絵本自体の目的や内容が多様化してきている。

関係性としてはまず、読み手である。従来、家庭で絵本を読むのは母親(女性)であったが、父親の育児参加の1つとして絵本の読み聞かせが提案されるようになってから、絵本の読み手に父親(男性)が加わった。さらに、子どもが絵本を読み聞かせてもらう場が家庭や保育所・幼稚園だけでなく、子育て支援施設や図書館・書店でのイベント

等広がりを見せていることにより、両親や保育・教育者以外にも図書館司書や書店員、地域の保護者やボランティアの人も読み手になることがあるのである。次に、聞き手も乳幼児とは限らなくなっている。小学校の授業や高齢者施設でも絵本の読み聞かせが行われるようになっており、聞き手の幅も広がりを見せている(横山ら, 2008)。

また、絵本自体も大きく変化しており、従来の「物語絵本」だけではなくなってきた。例えば、『もこもこもこ』(谷川俊太郎さく・元永定正え、文研出版)のように擬音だけで表現されている絵本や、『くだもの』(平山和子作、福音館書店)のように食べ物が本物のように描かれ紹介されている絵本、『おばけなんてないさ』(せなけいこ作、ポプラ社)のように有名な童謡の歌詞をそのまま文章にして絵をつけた絵本など様々である。

このように読み手・聞き手・絵本の3者が多様化する中で、前述のように子どもたちが絵本を読んでもらう場が広がりを見せている。子どもが絵本と出会う場に広がりを持つようになっている現在、それぞれの場で読み聞かせをすることの意義を考える必要もあるのではないかと。

横山ら(2007)は、「子どもにとって絵本との出会いの場所が違えば、その内容も意義も異なるであろう。家庭なら家庭の、保育機関なら保育機関ならではの絵本との出会いがあるはずである。それゆえ、各場所で同質・均一の絵本体験を提供するのではなく、個々の場の特徴を生かした絵本体験を提供することが必要である」と述べている。また、高橋ら(2005)では、子どもが体験する読み聞かせ機会をいくつか挙げ、それぞれの違いを考える中で、「幼稚園や保育所においては幼児教育

の専門性を生かし、集団での読み聞かせを意図的・計画的に実践し、この成果を絶えず評価することが必要である」と指摘している。

集団に対する読み聞かせの意義としては、保育者の専門性を生かした読み聞かせや共有体験(横山ら, 2007)、いろいろな感じ方を知り共感する(高橋, 2005)が挙げられているように、読み聞かせ行動やその成果に着目した研究は多い。しかし一方で、実際に絵本の読み手側の動機や目的などの認識面に焦点を当てたものは少ない。このことから、現在の保育者・教育者が保育・教育現場で捉えている集団への絵本の読み聞かせの意義の現状について検討することも必要ではないだろうか。

## 2. 目的

本研究の目的は、保育者・教育者が保育・教育現場で捉えている集団への絵本の読み聞かせの意義について明らかにすることである。

## 3. 方法

**調査対象** 保育所・幼稚園・認定こども園に勤務する保育士・幼稚園教諭計109名を調査対象とした。調査項目の完全回答者のみを有効回答者として分析に用いた。有効回答者数は90名であった(有効回答率82.6%)。

**調査期間** 2016年6月～9月に実施した。

**手続き** 質問紙法によって実施した。各園の園長を通して職員にお願いし、後日回収した。

**調査内容** 読み聞かせについてどのような意味があると考えますか?という質問に対し、各項目「あてはまる」から「あてはまらない」の5件法で回答を求めた。なお、本研究では、調査対象の「読

Table1 使用した質問項目(34項目)

秋田ら(1996)と細井(2015)の読み聞かせ尺度を基にした項目

文章を読む力が育つ  
 文字を覚えられる  
 ことばが増える  
 日常生活に必要な知識が身につく  
 集中力がつく  
 空想したり夢をもつことができる  
 本を通して保育者と子どものふれあいができる  
 身の周りの物へ新たな興味を持つことができる  
 本が好きになる  
 ものごとを深く考えられるようになる  
 子どもにとって必要な教養が身につく  
 話をする力がつく  
 子どもにとって気分転換になる  
 古くから伝えられている話を知ることができる

藪中ら(2014)と教育・保育要領(2014)を基にした項目

感性が育つ  
 保育者との絆が深まる  
 知性が育つ  
 話を聞く力がつく  
 子どもが落ち着く  
 保育者と心を通わせることができる  
 子どもたち同士で心を通わせることができる  
 集団の一体感を味わうことができる  
 皆で同じ世界を共有する楽しさを味わうことができる  
 豊かなイメージをもてるようになる  
 想像する楽しさを味わうことができる  
 ことばに対する感覚を養うことができる  
 文字に対する興味関心を持つことができる  
 新たな世界に興味関心を広げることができる  
 子どもの頃の思い出になる  
 ことばの発達が早くなる  
 空想の世界を楽しむことができる  
 子どもたち同士の絆が深まる  
 クラスに一体感が生まれる  
 表現力がつく

み聞かせ場面」を「保育所・幼稚園・こども園にて、保育士・幼稚園教諭がクラス等の集団に絵本を読み聞かせる場面」とした。

使用した質問項目は以下の通りである。まず、秋田ら(1996)と細井(2015)の読み聞かせ尺度を基に、内容が類似しているものを精査し、使用する質問項目を14項目抽出した。次に、藪中ら(2014)

の読み聞かせ尺度や幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2014)の言葉の領域を基に、指導教員と大学生3名で追加項目を検討し、20項目の質問項目を追加した(Table 1)。

以上34項目の質問にフェイスシート(性別、勤続年数、勤務先、配属クラス)を加えた質問紙を作成した。

## 4. 結果

### 4.1 絵本の読み聞かせ意義尺度の作成

分析を行う前に使用項目に関して天井効果・床効果について調べ、問題のあった8項目を分析から除外した。その後に26項目で因子分析を行ったところ、4項目に関して因子負荷量や因子の解釈に問題が見られ、これらの項目も除外した。

改めて残った22項目について記述統計を算出し(Table 2)、因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った結果が以下ようになった(Table 3)。

その結果、因子負荷量から4因子による解釈が妥当と判断した。これらの因子については該当項目より、第1因子を『知識・教養』、第2因子を『ふれあい』、第3因子を『文字への興味』、第4因子を『感情の共有』と命名した。

第1因子『知識・教養』は、「日常の生活に必要な知識が身につく」「子どもにとって必要な知識が身につく」「古くから伝えられている話を知ることができる」「新たな世界に興味関心を広げることができる」など8項目である。

第2因子『ふれあい』は、「保育者と心を通わせることができる」「子どもたち同士で心を通わせることができる」「知性が育つ」「話を聞く力がつく」など8項目である。

第3因子『文字への興味』は、「文字を覚えられる」「文章を読む力が育つ」「文字に対する興味関心を持つことができる」の3項目である。

第4因子『感情の共有』は、「集団の一体感を味わうことができる」「クラスに一体感が生まれる」「皆で同じ世界を共有する楽しさを味わうことができる」の3項目である。

そして、これら22項目4因子を『集団に対する絵本の読み聞かせ意義尺度』と命名した。

### 4.2 集団に対する読み聞かせの意義

因子分析の結果から、『知識・教養』『ふれあい』『文字への興味』『感情の共有』の4因子が抽出された。因子分析の対象から除外した8項目については、天井効果が見られたことから、調査対象者の多くがこれらの項目に意義を感じていると判断し、うち4項目について、『想像力』としてまとめられた(Table 4)。

Table4 『想像力』に関する項目

空想したり夢をもつことができる
豊かなイメージをもてるようになる
想像する楽しさを味わうことができる
空想の世界を楽しむことができる

『想像力』は、「空想したり夢をもつことができる」「豊かなイメージをもてるようになる」「想像する楽しさを味わうことができる」「空想の世界を楽しむことができる」の4項目からなっている。

これらの結果から、『知識・教養』『ふれあい』『文字への興味』『感情の共有』『想像力』の5つが集団に対する読み聞かせの意義であると明らかになった。

Table3 集団に対する絵本の読み聞かせ意義尺度の因子分析結果(22項目)

	因子負荷量			
	因子1	因子2	因子3	因子4
<b>因子1 知識・教養(<math>\alpha=.892</math>)</b>				
日常生活に必要な知識が身につく	.912	-.153	-.093	.182
ことばが増える	.704	.137	-.011	-.207
子どもにとって必要な教養が身につく	.688	-.140	.253	.150
古くから伝えられている話を知ることができる	.646	-.014	-.044	.105
新たな世界に興味関心を広げることができる	.575	.180	-.092	.147
話をする力がつく	.572	.309	.057	-.218
集中力がつく	.545	.102	.044	.085
ものごとを深く考えられるようになる	.529	.079	.165	-.082
<b>因子2 ふれあい(<math>\alpha=.905</math>)</b>				
保育者と心を通わせることができる	.034	.925	-.210	.082
保育者との絆が深まる	.189	.806	-.253	.005
子どもたち同士で心を通わせることができる	-.125	.718	.093	.122
子どもたち同士の絆が深まる	-.260	.666	.239	.303
知性が育つ	.167	.612	.187	-.112
ことばに対する感覚を養うことができる	.279	.583	.023	-.075
話を聞く力がつく	.221	.433	.148	-.044
子どもの頃の思い出になる	.198	.418	.047	.036
<b>因子3 文字への興味(<math>\alpha=.871</math>)</b>				
文字を覚えられる	.044	-.127	.942	-.016
文章を読む力が育つ	-.051	.001	.884	-.025
文字に対する興味関心を持つことができる	.129	.040	.662	.020
<b>因子4 感情の共有(<math>\alpha=.873</math>)</b>				
集団の一体感を味わうことができる	.038	.004	-.164	.994
クラスに一体感が生まれる	-.087	.242	.098	.737
皆で同じ世界を共有する楽しさを味わうことができる	.204	-.039	.137	.620

## 5. 総合的考察

本研究の結果から、保育・教育の場で「絵本の読み聞かせ」という活動を取り入れることの意義を検討したところ、まず1つに絵本そのものを楽しむ、ということが挙げられる。その絵本のもつ世界を存分に味わい、その物語に感動したり、驚

いたり、時には悲しい気持ちを経験したりする。そうした中で絵の美しさ、力強さ、繊細さを感じ、いくつもの文から表現の面白さを知り、身体一杯に絵本を感じる、それだけで絵本を読む意義はあることが示された。

しかし、それだけではなく、本研究では、『知識・教養』『ふれあい』『文字への興味』『感情の共有』『想

像力』の5つが明らかとなったことから、それぞれについて考察する。

まず、『知識・教養』は、子どもが絵本の読み聞かせを通して知的な力を身につけていることを表している。読み聞かせは、生活に必要な知識を得たり、今まで知らなかった事物を知り、興味関心を広げたりすることにつながると考えられる。また、絵本の中や絵本を通じた会話の中で様々なことばに出会い、何度もふれあうことで子どもの語彙世界が広がっていくと考察される。

次に、『ふれあい』は、読み手である保育・教育者と聞き手である子ども、また、子ども同士の人間関係に関する内容になっており、読み聞かせを通して同じ場面で同じ感情を共有して語り合ったり、ことばや絵を楽しんだりすることで心を通わせたり、絆を深めることが目指されていると考えられる。

さらに、『文字への興味』は、文字や文章に興味をもつきっかけになるという内容である。乳幼児期の読み聞かせでは文字の習得までは必ずしも目的とされてはいないが、あくまで興味関心をもつためのきっかけであるのだろう。このように文字への興味を持つための重要な教材になっていることが推察される。

また、『感情の共有』は、クラス等の集団での読み聞かせを通して、絵本の世界で感じる様々な感情を、その場にいる皆で共有しているという内容である。集団の一体感を味わったり、皆で同じ世界を共有したりするといった集団での読み聞かせならではの意義であろう。

そして、『想像力』とは、空想の世界を楽しんだり、豊かなイメージをもつための想像力に関する

内容となっている。絵本の中では現実世界では起こりえないことや存在しないものなどが描かれており、その世界を味わうことで想像力が養われると考察される。

これらが本研究で明らかとなった「集団に対する読み聞かせの意義」である。これを Figure 1 に示した。

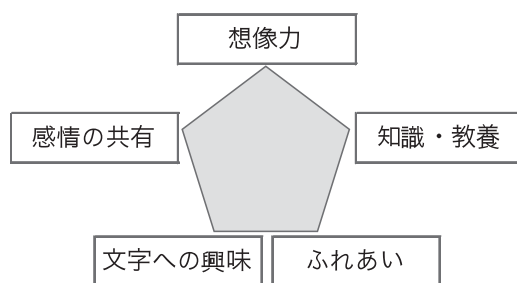


Figure1 集団に対する絵本の読み聞かせ意義

本研究で明らかとなったこれら5つの意義を通して、「絵本の読み聞かせの意義」について次のことが考察される。1つは、直接体験を補う意味での読み聞かせである。子どもをはじめとし人間は“体験を通して成長する”と言われているが、体験には直接体験と間接体験の2つがある。このうち人間の成長にかかわる体験は、本来直接体験が中心である。それは、自分の身体を実際に動かしたり、五感を最大限使って感じる中でしか得られない知識や感覚があり、それが成長を促す材料になると考えられるためである。しかし、現代の子どもたちは生活スタイルの変化などから、家庭で生活する時間が減り、1日の大部分を保育所や幼稚園で過ごす中で、直接体験の機会も減少している。これを受け、保育所や幼稚園等では、子どもたちがいろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるような援助が求められている。こ

うした中で、現場の保育・教育者は園児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮しながら、活動内容を工夫し、子どもたちがより多くの体験が出来るように努めている。しかし、園で出来ることや伝えられることには時間的にも空間的にも限りがある。そこでそれを補っているのが絵本なのではないか。近年の絵本はファンタジーを楽しむものだけでなく、身のまわりの生活習慣に関するものや、世の中にある様々な物を図鑑のように紹介しているもの、現実世界をリアルに描写したものなど、多岐にわたっている。こうした絵本を読み聞かせてもらうことで、現実世界で直接体験すべきことを疑似体験することが出来る。もちろん、これだけで直接体験の全てが補われるわけではないが、興味をもつきっかけになることで、直接体験に結びつく可能性はあるだろう。このように絵本の読み聞かせによって直接体験を補い、子どもの成長発達を促していると考えられる。

もう1つは、読み手と聞き手及び聞き手間の情緒的な関係を築き、深めるという意義があると考えられる。絵本から様々なことを感じ、それをその場の雰囲気や読み聞かせ中に自然に生まれる発話等によって共有することで、皆で同じ気持ちを感じ一体感が生まれる感覚を味わったり、同じ物語を聞いてもそれぞれ印象に残ることや抱く感情に違いがあることを知り、他人の気持ちに気づいたりすることで、子どもたち一人ひとりも集団としても成長していくのではないだろうか。このような共有体験を通して信頼関係が築かれることで安心して園生活を送ることにもつながると考えられる。子どもたち一人ひとりが安心感と信頼感をもって過ごすことで、主体的に活動に取り組む姿

が見られるようになる。そして、自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習となるのである(認定こども園教育・保育要領, 2014)。このように活動の基盤になる周囲との信頼関係を築くことにも絵本の読み聞かせは関係しているといえる。

そして、上述した読み聞かせの意義を果たすためには、子どもにかかわる保育・教育者の専門性を生かすことが重要になってくる。それは、子どもたちが絵本を通して様々な力をつけ成長発達するためには、子どもたちの興味や能力にそった絵本であることが最も重要だからである。横山ら(2008)も「子どものことをよく知る保育者が、子どもの生活や興味発達に即した絵本を選ぶ。選んだ絵本の内容は、子どもの生活や体験とつながるものである。子どもの過去と現在、そして未来の生活につながる絵本を、保育者だからこそ選ぶことが可能となる」と述べているように、保育・教育者がその集団の年齢や能力にそった選書を行うことで、子どもの興味の世界を広げ、語彙世界を豊かなものにする援助になるのである。

この園児一人ひとりの特性や発達の過程に応じて活動を提案し、環境を構成して、子どもたちの成長発達を支えようとする気持ちと行動は、絵本の読み聞かせにとどまらず、保育・教育の全ての内容にとって重要なことであると考えられる。

本研究の結果から考察された以上の内容を「保育・教育現場における絵本の読み聞かせ意義のモデル」としてFigure 2に示した。

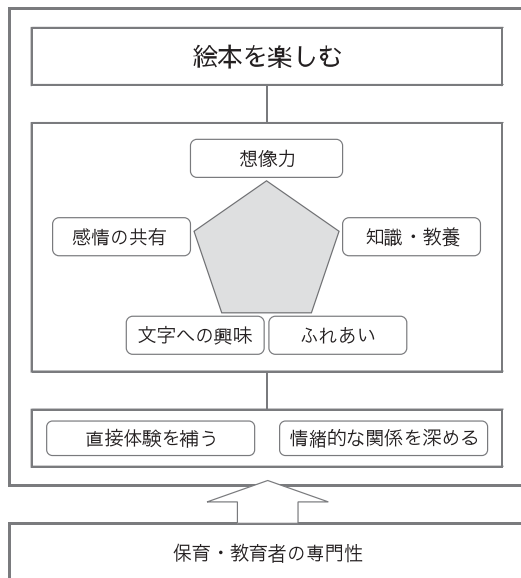


Figure2 保育・教育現場における  
絵本の読み聞かせ意義のモデル

## 6. 今後の課題

今回の調査では、109名の保育・教育者が対象であった。目的としていた「集団に対する絵本の読み聞かせ意義」はその尺度作成を通して概要は示されたが、本尺度の信頼性・妥当性の検証は今後の課題である。また、年齢毎に読み聞かせ意義に違いがあるのかについてもさらなる検討が必要であろう。

### 要約：

本研究では、保育・教育現場における絵本の読み聞かせの意義を検討した結果、「想像力」「感情の共有」「教養」「文字への興味」「ふれあい」の5つの因子が抽出された。また、これらの意義を

支えるためには、保育・教育者の専門性が重要であることが考察された。

## 7. 引用文献

- 秋田喜代美・無藤隆 1996 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討 教育心理学研究, 44(1), 109-120.
- 平山和子 1981 くだもの 福音館書店
- 細井美里 2015 幼児への読み聞かせに関する一研究—保育・教育者をめざす大学生の意識調査から— 厚生労働省 2008 保育所保育指針
- 児玉孝乃 2011 絵本とは何か—民話・昔話絵本を利用につなげよう— 東海学院大学短期大学部紀要, 37, 23-34.
- 松居直 2000 絵本の与えかた 福音館書店, 小冊子, 1-13.
- 文部科学省 2008 幼稚園教育要領
- 内閣府 2014 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 齋藤有 2015 幼児期の絵本の読み聞かせ場面における大人の関わりに関する研究—幼児の自発的な学びを促す側面への着目— 風間書房
- 参議院本会議 1999 子ども読書年に関する決議 参議院本会議決議本文 第145回国会
- せなけいこ 2009 おばけなんてないさ ホブラ社
- 高橋順子・首藤敏元 2005 幼児教育における集団での絵本の読み聞かせ 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 4, 165-176.
- 谷川俊太郎 1977 もこもここ 文研出版
- 藪中征代・吉田佐治子 2014 子どもへの絵本の読み聞かせに対する親の考え—0歳児, 5歳児, 小学2年生の比較を通して— 聖徳大学研究紀要, 25, 47-54.
- 横山真貴子 2003 保育における集団に対するシリーズ絵本の読み聞かせ—5歳児クラスでの『ねずみくんの絵本』の読み聞かせの事例からの分析 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 12, 21-30.
- 横山真貴子・上野由利子・木村公美・原田真智子 2007 4歳児の家庭における絵本体験の特徴—幼稚園での絵本体験の影響をふまえての分析— 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 16, 49-58.
- 横山真貴子・水野千貝沙 2008 保育における集団に対する絵本の読み聞かせの意義—5歳児クラスの読み聞かせ場面の観察から— 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 17, 41-51.